安全データシート

作成日　　2011 年 6 月 30 日
改訂日　　2017 年 4月 1日
改訂日　　2021 年 7 月 8 日

1．製品及び会社情報

製品の名称　　**1day グラウトＷ　Ｂ剤**

会社名　　アサヒボンド工業株式会社
住所　　東京都板橋区大谷口北町３－７
担当部門　　営業部
電話番号　　03-3972-4929
ＦＡＸ番号　　03-3972-4583
緊急連絡電話番号　　営業部　03-3972-4929
推奨用途及び使用上の制限:　　コンクリート構造物の補修に限る。
整理番号　30024

2．危険有害性の要約

GHS 分類
健康有害性
急性毒性(吸入:蒸気)　　区分 4
皮膚腐食性／刺激性　　区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性　　区分 2
皮膚感作性　　区分 1
特定標的臓器毒性(単回ばく露)　　区分 3(気道刺激性)
環境有害性
水性環境有害性・慢性　　区分 2
※上記、記載のないものは「分類できない」

GHSラベル要素
絵表示又はシンボル

注意喚起語　　警告
危険有害性情報
H332 吸入すると有害(蒸気)
H315 皮膚刺激
H319 強い眼刺激
H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H335 呼吸器への刺激のおそれ
H411 長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き
【安全対策】
P261 蒸気の吸入を避けること。
P264 取扱い後は手をよく洗うこと。
P271 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋/保護眼鏡を着用すること。

【応急措置】
P312 気分が悪いときは医師に連絡すること。
P302+P352 皮膚に付着した場合:多量の水と石鹸で洗うこと。
P304+P340 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P305+P351+P338 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P332+P313 皮膚刺激が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。
P333+P313 皮膚刺激または発しんが生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。
P337+P313 眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。
P362+P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保　管】
P405 施錠して保管すること P403+P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

【廃　棄】
P501 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理すること。 廃棄する場合は 1day グラウトＷ Ａ剤と 1day グラウトＷ Ｂ剤(本Ｂ剤)を少量ずつ混合させ、速やかに十分な水に浸漬させて廃プラスチック類として廃棄すること。 単液で廃棄する場合は他の廃棄物と混ぜずに、廃油として廃棄すること。WA 剤本Ｂ剤を混合した硬化物

をディスクサンダーで研磨した粉末は、掃除機を使用せずにほうきで集めて十分な水に浸漬させて廃棄すること。 本接着剤の使用時に生じた次のものは十分な水に浸漬して廃棄すること。
①接着剤成分が付着した可燃物(ウェス、ダンボール、養生シート等)
②接着剤成分が付着した注入用器具、ローラー、刷毛

GHS 分類に該当しない他の 危険有害性　燃えやすい液体である。蒸気(主にメタクリル酸エステル類)が滞留すると 爆発の恐れがある。燃焼により有害なガス(一酸化炭素、窒素酸化物な ど)を発生することがある。

重要な徴候　皮膚などに触れるとかぶれることがある。

国／地域情報　15 項を参照のこと。

3. 組成及び成分情報

物質･混合物の区別　混合物

成分及び含有量

化学名又は一般名	官報公示整理番号	CAS No.	濃度範囲(%)
高分子化合物	非開示	非開示	30 - 50
メタクリル酸エステル	非開示	非開示	20 - 40
メタクリル酸 2-ヒドロキシエチル	(2)-1044	868-77-9	10 - 30
有機コバルト化合物	(2)-615	136-52-7	< 3.0
灯油	(9)-1702	8008-20-6	< 1.0

4. 応急措置

吸入した場合　蒸気を吸入して不快、頭痛等がある場合には、直ちに新鮮な空気の場所に移し、毛布等で保温して安静にさせ、速やかに医師の診断/手当てを受ける。

皮膚に付着した場合　汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。 皮膚にふれた部分を速やかに水または石鹸にて洗浄し、付着した製品を完全に洗い流す。洗浄を始めるのが遅れたり不十分であると皮膚の障害(かぶれ)を生じる恐 れがある。外観に変化がみられたり、痛みがある場合には速やかに医師の診断/手当てを受ける。

眼に入った場合　直ちに洗浄を始め、清浄な水で 15 分間以上洗浄後、眼科医の診断/手当てを受ける。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。洗眼の際、まぶたを指でよく開き、すみずみまで水が行きわたるように 洗浄する。目をこすってはならない。洗浄を始めるのが遅れたり、不十分だと障害を生ずる恐れがある。そして、できるだけ速やかに眼科医の診断/手当てを受ける。

飲み込んだ場合　水でよく口の中を洗浄する。気分が悪いときは、速やかに医師の診断/手当てを受ける。 被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。

5. 火災時の措置

消火剤　噴霧水、粉末消火剤、ハロゲン化物消火剤、二酸化炭素消火剤、泡消火 剤、乾燥砂。

使ってはならない消火剤　棒状注水。

特有の危険有害性　熱、火花、火炎で容易に発火する。 火災に巻き込まれると爆発的に重合するおそれがある。

特有の消火方法　危険でなければ火災区域から容器を移動する。 火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。 消火作業は風上から行う。

消火を行う者の保護　消火作業の際は適切な空気呼吸器、化学用保護衣(耐熱性)を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具 及び緊急時措置　屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。 作業の際には必ず保護眼鏡や保護手袋等の保護具を着用し、風上から作業する。

環境に対する注意事項　環境への影響を起こさせないよう、河川等へ排出させない。回収物は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規･法令を遵守し、適正に処理する。

封じ込め及び浄化の方法･機材　漏洩時はおがくず、ウェス、砂等に吸収させてから回収して十分な水に浸漬して廃棄する。衝撃や静電気による火花が発生しない材質の用具を用いて回収する。 二次災の防止策 :付近の着火源となるものを取り除き、消火用機材を準備する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策　目、皮膚、及び衣類に触れないように、8 項に記載した保護具を着用する。漏れ、あふれ、及び飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。 火気厳禁。高温物、スパーク、火炎を避ける。 本製品の硬化物をディスクサンダー等で研磨した場合、研磨した粉末を集め たまま(掃除機のフィルター、ゴミ袋等)処置すると自然発火するおそれがある。 積もった研磨粉は掃除機使用せずにをほうきで集め、廃棄するまで十分な水に浸しておき、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬 業者や処分者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規･法令を遵守し、適正に処理する。

局所排気、全体換気　全体換気装置、必要に応じて局所排気装置を設置する。

安全取扱い注意事項　換気のよい場所で取扱い、蒸気を吸入しないように注意する。目、皮膚及び衣服に付着させないようにする(第 8 項の保護具を参照)。休憩場所等に手洗い、洗眼の設備を設ける。取扱い後に手洗い、洗顔を励行する。

接触回避　混触危険物質(第 10 項参照)と同一場所に置かない。A 剤 と本 B 剤を一度に多量に混合すると、急激な反応によ り激しく発熱する危険があるのでこのようなことは行わない。 接着剤成分が付着したウェスやローラー、ダンボールなどの可燃物は自然発火する可能性があるので十分な水に浸漬して廃棄する。

保管

適切な保管条件　変質(変形)を防止するため、直射日光、水漏れ、湿気、熱を避けて冷暗所(好ましくは 20℃以下)で容器を密閉して保管する。 火災を防止するため、火気、熱源、発火源から離れた場所で保管する。

安全な容器包装材料　ポリエチレン(PE)またはポリプロピレン(PP)製容器。

不適切な容器包装材料　密封できない容器を保管に使用すると、揮発する可能性がある。 金属製の容器に保管すると、ゲル状の不溶物を生じる可能性がある。 PE、PP 以外のプラスチック製容器、ガラス製容器は不適切。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策:全体換気設備および／または局所排気等の設備を設置して作業者がばく露から避けられるようにする。

管理濃度:設定されていない

許容濃度:ACGIH 許容濃度／許容濃度勧告値

	TWA	STEL
コバルト化合物	0.005mg/m^3	
灯油	3mg/m^3 鉱油ミスト	—

保護具

呼吸器の保護具　換気の不十分な屋内で使用する場合は有機ガス用防毒マスク等を着用する。

手の保護具　耐溶剤性保護手袋。 接着剤の成分が浸透しにくいため、かぶれにくくなる。但し手袋によ っては、合わせ目が破れ易いものがあるので、事前に破れのないことを確認した上で使用する。

眼の保護具　側板付き普通眼鏡型又はゴーグル型保護眼鏡。

皮膚及び身体の保護具　長袖の作業衣。

衛生対策　作業中は飲食、喫煙をしない。禁煙。 作業終了時には、石鹸で手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

外観　紫色・粘稠液体

臭い　微かに特有芳香がある

沸点　125 ℃@133Pa(メタクリル酸エステル)

引火点　102 ℃(メタクリル酸 2-ヒドロキシエチル、密閉式)

発火点　データなし

爆発範囲　データなし

蒸気圧　データなし

比重　0.9 ～ 1.1(25 ℃)

自然発火温度　データなし

10. 安定性及び反応性

安定性　第 7 項記載の適切な保管条件においては安定である。

危険有害反応可能性　高温、光の照射、混触危険物質との混合・接触により、発熱を伴う急激な化学反応(重合反応、分解反応)が起こり、有害性ガスの発生や火災発生の危険がある。

避けるべき条件
混触危険物質　加熱、火気、直射日光、酸化性物質、有機過酸化物等の酸化剤との混合・接触。強酸化剤、強酸、強アルカリ。

危険有害な分解生成物　データなし

11. 有害性情報

成分情報として、以下のような有害性情報がある。これらの成分の含有率を勘案して GHS 分類は第 2 項の通りとし た。

急性毒性(吸入)　メタクリル酸エステルは急性毒性(吸入:蒸気)である。

皮膚腐食性／刺激性　高分子化合物の一部、メタクリル酸エステル、メタクリル酸 2-ヒドロキシエチル、2-エチルヘキサン酸コバルトは皮膚刺激性である。

眼に対する重篤な損傷性／ 眼刺激性　高分子化合物の一部、メタクリル酸エステル、メタクリル酸 2-ヒドロキシエチルは眼刺激性である。

皮膚感作性　高分子化合物の一部、メタクリル酸 2-ヒドロキシエチル、2-エチルヘキサンコバルトは皮膚感作性である。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)　高分子化合物の一部、メタクリル酸エステルは特定標的臓器毒性(単回ばく露:気道刺激性)である。

１２．環境影響情報

漏洩すると環境に影響を与える恐れがある。水系、土壌など環境中に放出してはならない。メタクリル酸エステルは水生環境有害性（慢性）である。

１３．廃棄上の注意

残余廃棄物	都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分者と契約 し、廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）及び関係法規・法 令を遵守し、適正に処理する。 廃棄する場合は 1day グラウトＷ Ａ剤と 1day グラウトＷ Ｂ剤(本Ｂ剤)を少量ずつ混合させ、速やかに十分な水に浸漬させて廃プラスチック類として廃棄する。 単液で廃棄する場合は他の廃棄物と混ぜずに、廃油として廃棄する。 本製品の硬化物をディスクサンダー等で研磨した場合、研磨した粉末を集めたまま（掃除機のフィルター、ゴミ袋）放置すると自然発火する可 能性がある。掃除機は使用せずにほうきで集めて十分な水に浸漬させて 廃棄する。
汚染容器・包装	下記に該当するものは残余廃棄物と同様に処理する。 ①接着剤成分が付着した可燃物（ウェス、ダンボール、養生シート等） ②接着剤成分が付着した注入用器具、ローラー、刷毛

１４．輸送上の注意

国際規制	
国連番号	3082
品名	環境有害物質、液体
国連分類	クラス 9（その他の危険物）
容器等級	Ⅲ
海洋汚染物質	該当
国内規制	15 項を参照のこと。
特別の安全対策	運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み荷崩れの防止を確実に行う。

15．適用法令

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)	第 1 種指定化学物質 コバルト及びその化合物
消防法	危険物第 4 類第 3 石油類（非水溶性）
労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 コバルト及びその化合物、灯油
毒劇物取締法	該当せず
船舶安全法	環境有害物質
航空法	該当せず

１６．その他の情報

1）本情報は、作成者の知識の及ぶ限りにおいて正確ですが、その内容の絶対的な情報の正確性および情報収集の網羅性においては完全ではありません。またその内容は、代表的な実験値や調査に基づくものであり、いかなる保証をなすものではありません。

2）　本記載内容は、材料、製品に関するものであり、この材料が他の素材と組み合わされた場合、処理された場合については想定しておりません。

3)　特に医薬用途では使用しないで下さい。

4)　この材料を適切に使用する最終的決定の責任、およびこの情報をユーザー独自の取扱いに適合させ完全で満足できるものとする責任はユーザーにあります。

5)　全ての材料には未知の危険性があり、取扱いに充分に注意する必要があります。この SDS には特定の危険性について記載してありますが、これ以外の危険性が存在しないとはいえません。

6)　ご使用に際しては、必ず貴社にて事前テストを行うなどして、使用目的への適合性や安全性等を確認の上、安全な使用条件を設定してください。

7)　本 SDS の内容は新しい知見により断りなく変更する場合がありますので、ご了承ください。